

6月豊橋市議会傍聴記

①

地方政治クリエイイト 伊藤 秀昭

6月定例豊橋市議 (有志会)。
会が始まった。

6月8日には豊橋市民球場で「ルースヴェルトゲーム」の観客エキストラとして参加してきたが、何度も何度も繰り返す撮影シーンにプロの仕事の流儀を教えられた。

地方議員を職業とする議員諸氏の白熱の論戦を期待したい。

■ごみ減量

レジ袋が有料化になって一年、またビンカンボックスから資源物を持ち去る行為を禁止する条例が施行されて半年。その効果については質問したの牧野英敏氏

■人口急減社会

環境部長は約278トンのレジ袋の削減につながり、ごみ減量、二酸化炭素排出の抑制など一定の成果があったとした。資源持ち去り禁止については、条例施行後半年間でアルミ缶が60ト増加し、売却額も766万円増えたとした。

牧野氏は、レジ袋の有料化に取り組んでいない業者との客の争奪戦が行われていることや、持ち去り行為者は生活困窮者が多いことを上げ、社会参加に向けた施策の展開を強調した。

女性人口は2040年には10年に比べて約3割減少すると見られ、改めて若者や女性にとって魅力あるまちづくりの重要性を確認した。

沢田氏は政策を総動員して危機感を持って取り組むべきだとし、その核となる行政組織が必要であると迫ったが、当局は「総合計画に掲げた目指すまちの姿の実現に取り組む」とかわした。

むしろ、愛知県内では消滅可能性が高い7市町村のうち4市町村が東三河に集中していることから、東三河広域連合の大きな役割として、議論を深めていきたがった。

寺本泰之氏(紘基会)は今回も入札問題をとり上げ、「公正な競争のもとに、安価で高品質な公契約がなされるべきであり、昨年6月より試行中である低価格資格判断制度は速やかに取り下げるべき」と主張した。

地方議員の白熱の論戦を期待



寺本泰之氏(紘基会)は今回も入札問題をとり上げ、「公正な競争のもとに、安価で高品質な公契約がなされるべきであり、昨年6月より試行中である低価格資格判断制度は速やかに取り下げるべき」と主張した。

低価格入札による品質の低下、労働環境の悪化を未然に防止するために、入札結果を検証しながら継続するとして、平行線のまま最終した。

■広報・情報戦略
多様化する市民ニーズに対応した市政運営のためには広報力や情報発信力が不可欠であり、そのこ

治体の広報戦略論に終始してしまう。

■公契約条例
廣田勉氏(まちなみオーラム)は、豊橋市においても昨年度1年間の一般競争入札664件のうち80件の入札不調があったことや、委託業務での落札コストが下がりが続ける現状が労働単価や労働条件の悪化につながっている

地方自治体を取り巻く新たな管理手法や民間資金の活用手法の問題点を精査し、その上で「公契約条例」の制定の必要性を説いていく展開は俊逸だった。

また指定管理者制度やPFI事業が民間活力による住民サービス向上と経費削減の目的が果たされ、かつ適正な管理運営がなされているのかなど、公契約のあり方についてを問

題にした。

佐藤多一氏(自民)は、地域が持続的に発展していくためには地域資源の自給率を高める産業の振興が重要であるとして、新たな産業としての農業の振興と新規就農を目指した人材育成、新たな木材需要の創出、木造建築に対する人材育成などを取り上げた。

佐藤氏は四期目のいわゆるベテラン議員であるが、毎回毎回登録し、一般質問に取り組み姿勢は特に一期、二期議員は大いに見習ってほしい。